

応用行動分析入門：教育へのピラミッドアプローチ®（PAE®）

応用行動分析入門：教育へのピラミッドアプローチ®（Pyramid Approach to Education®）は効果的な学習環境を確立するための総合的なフレームワークです。機能的な応用行動分析（ABA）の原則を基にアンドリュー・ボンディ博士により開発されたこの教育へのピラミッドアプローチは学校・施設・ご家庭や地域社会の中で指導する立場にある人々であれば誰にでも、適切で効果的な指導法の基盤として使っていただけます。この独自のモデルは発達障害、自閉症、コミュニケーション障害やその他の学習障害など幅広い障害や年齢層の方々に役立ちます。



学習者の最大限の学習成果を達成するためには、何をどのようにして教えるかに関する情報だけでなく、全ての要素を組み合わせる計画が必要となります。応用行動分析入門：教育へのピラミッドアプローチは指導/支援者チーム皆にとって何の要素をどのような順番で取りかかるのかを決定するための明確なガイドになります。ピラミッドを構築するには、建物の本体を構築する前に頑丈な土台を確立することから始まります。それと同様に、応用行動分析入門：教育へのピラミッドアプローチは学習の科学的なアプローチに基づき、頑丈な基盤を確立することから始まります。

応用行動分析入門：教育へのピラミッドアプローチは「何を教えるのか」と「どのように教えるか」2つ異なる要素により成り立っています。効果的に学ぶ環境を構成するには「何を教えるのか」の要素で基盤を作り上げます。

基盤の要素	簡単な説明
機能的な活動	日常生活と長期的なスキルの発達を促進するために日常生活で使う道具や物を教材として使用することで、自立を育成するためのレッスン
強力な強化システム	強力な強化子の獲得のために使用する視覚的システム
機能的なコミュニケーションと社会性のスキル	一日の生活の中に組み込まれた、自立性を伸ばすために必要なコミュニケーションスキル
状況にそぐわない行動 (CIBs)	状況にそぐわない行動の機能制御を見つけ、見つけた機能と同じ機能を持つ代替行動を指導し、サポートすることに焦点を当てる

指導要素はピラミッドの上の部分形成し、効果的なレッスンの作成に関連する情報が含まれます。

側面の要素	簡単な説明
般化	指導を開始する前に刺激般化と反応般化、両方が含まれた長期の目標が計画されていること
レッスン形式	行動単位型 vs. 行動連鎖型のレッスンや指導者 vs. 対象者先導など、レッスンタイプの識別と区別をする
指導法/プロンプト方法	シェイピングやプロンプトの使用などのエビデンスベースと確認されている方法の説明、そしてプロンプトを取り除いていくための明確で効果的なやり方の説明
エラー修正	学ぶ機会を促進し、レッスンタイプに合ったエラー修正方法を体系的に使用する

これらの要素全てに体系的なデータ収集と分析の両方を必要とし、それらを基に判断することが重要です。全ての要素がそろって指導/支援者、保護者そして生徒に効果的な成果が見られることでしょう。教育へのピラミッドアプローチを実践していくにあたり、成果と自立の向上をもたらす効果的な学習環境を構成できるでしょう。

応用行動分析入門：教育へのピラミッドアプローチ®（PAE）についての詳細は www.pecs-japan.com をご覧ください。応用行動分析入門：教育へのピラミッドアプローチのワークショップやコンサルテーションについては事務所までご連絡ください。電話:093-581-8985 メール: pyramidjp@pecs.com